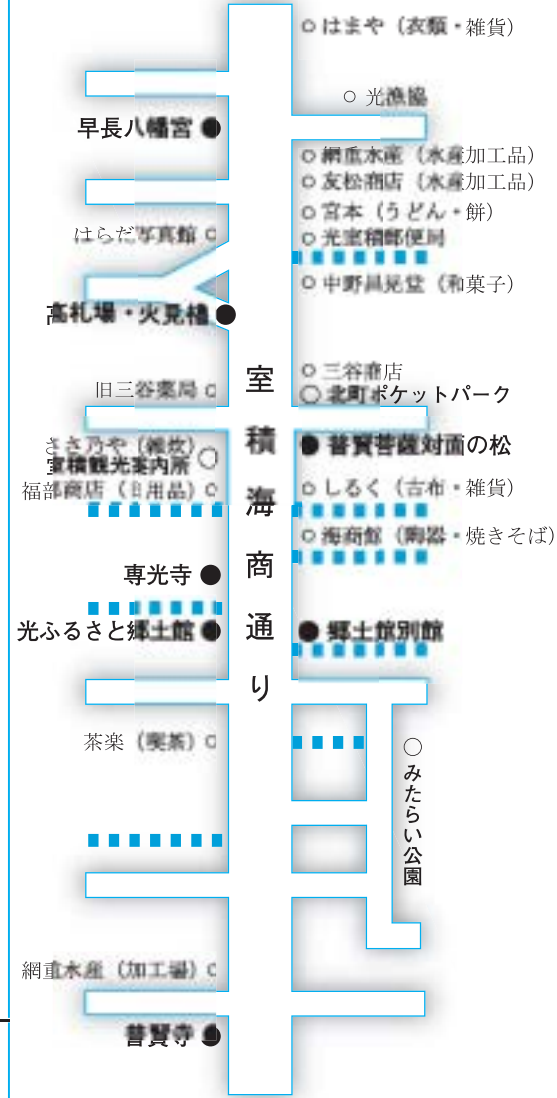


いにしへ 古えのにぎわい 室積 海商通り



※ ■■■■ は、「あいご」と呼ばれる細い路地。



昔の人の知恵に、ただひたすら関心しました。また、本館の向かい側に別館があり、ここでは、昔の豪商の暮らしをうかがうことができます。家の玄関を入ると、少し圧迫感を受けますが、進んでいくと落ち着いたたたずまいの部屋が多くありました。現在の柱の倍以上あるような黒光りした存在感のある大黒柱、素晴らしいふすまの絵、600年前に沖縄から持ち帰ったと言われているソテツなど、レトロファンを楽しませてくれる場所です。

ここに来ると、「うちも昔はこうだったなあ。」と日本の原風景を懐かしく思い出すことができるのではないのでしょうか。

性空上人の命日と伝えられる5月14・15日に、毎年「普賢まつり」が盛大に開催されています。期間中は、露店が立ち並び、大勢の参拝客で昼も夜も賑わいます。私も普賢まつりには、毎年欠かさず足を運んでいます。また、毎月第4日曜日には、「普賢寺今昔市(こんじゃくいち)」が開催されていて、毎回多くの人が訪れています。

海商通りの最後を飾るのは「普賢寺」で



取材を終えて・・・

私は室積に住んでいるのですが、自分の住んでいる町を見直したいと思い、今回このツアーに参加しました。このツアーは私にとってまさに「ふるさと再発見ツアー」となりました。港町として大いににぎわった室積の歴史を知ったり、足を踏み入れたことのない場所に行ったり、昔の生活を垣間見たり...このような貴重な体験ができて、本当によかったと思います。

そして「海商通り」の裏側には、ふるさとを愛する多くの人たちの努力があることを知りました。ボランティアガイドの皆さんの丁寧なガイドぶり。皆さんに理解しやすいように、ひとつでも多くのことを知って帰ってもらえるようにと、一生懸命説明してくださる姿に感動しました。そして、地元の人たちが「海商通り」を活性化しよう、もっと盛り上げようと自主的に会をつくり、たくさんの人たちがその活動に参加しています。隣近所との関係が希薄になりがちな現在、皆さんが団結してふるさとを守り、次世代に受け継いでいこうと取り組んでいる姿には頭が下がります。

そんな皆さんの努力の一つが、現在も往時の風情を残し、訪れる観光客の心を和ませてくれる「海商通り」をつくっているのだと感じます。

私も室積の住人の一人として、このすばらしい遺産を、市内外の人たちに、もっとPRしていきたいと思っています。